

2025 年 9 月卒業式式辞

2025 年 9 月 20 日

田中愛治

卒業生の皆さん、ご家族・ご親族の皆様、ご卒業おめでとうございます。卒業される皆さんはもちろん、これまで卒業生を支えてこられたご家族・ご親族の皆様も、たいへんお喜びのことと存じます。本日は、早稲田大学を代表して、私からお祝いの言葉を申し述べたいと思います。

卒業生の皆さんだけでなく、ご家族の方にもご参加いただきたい気持ちもありましたが、この早稲田アリーナの前の道路や交差点が危険なほど混雑することもあり、ここ数年間は卒業生の皆さんだけの出席をお願いしています。ご理解いただければと思います。

皆さんはコロナ・パンデミックが終わらないうちに早稲田大学に入学され、コロナを乗り越え、その後は通常の学生生活を送ることができた上で、本日、無事に勉学を修めてご卒業されることを、私たち教職員はたいへん誇らしく、嬉しく思っています。

今年、学部を卒業される皆さんの多くは、2021 年 9 月に新型コロナウイルス感染症が続いている中で入学されました。2021 年度からは徐々に対面の授業を復活させてきましたが、当時は依然として学生生活に大きな制約があったと思います。例えば、学生同士のコンパも、2023 年の 4 月まで解禁できませんでした。その意味では、皆さんは十分な学生生活を享受することが出来なかった時期を経験したと思います。それは、学部生に限らず、大学院生も、芸術学校の生徒の皆さんも同様であったと思います。

早稲田大学では、コロナ禍の間、学内で大規模クラスターを発生させることはありませんでした。その点で、皆さんのご協力に心から感謝しております。

このように、皆さんも、私たち早稲田大学全体も、コロナ・パンデミックのために、不自由な思いをして、それを乗り越えてきたと思います。ただ、その辛い思いをした分だけ、皆さんは、逞しくなったと思います。

今、私は「逞しくなる」という言葉を使いました。実は、私が 7 年前、2018 年 11 月に総長に就任してから提唱してきた理念が、「たくましい知性」を鍛えること、そして「しなやかな感性」を育むことなのです。

「たくましい知性」とは、どういう知性でしょうか。今日、人類が直面している問題の多くには、正解がありません。たとえば、コロナ・パンデミックへの対策には、これが正解と証明されているものはありませんでした。同様に、地球の温暖化による気候変動への対策も、地球上の至る所に存在する貧困と格差の解決法も、また世界各地で起きている戦争・紛争・武力侵攻によって多くの人々が命を落とし、人権侵害が続いている状態など、どの問題も正解を見つけにくい大きな問題です。

皆さんが社会に出て向き合う問題の多くは、このように正解が教科書や専門書に記されていない場合が多いと思います。武力による人々への人権侵害やコロナ・パンデミックなど、いま私が例に挙げた、人類全体が直面している問題ほどには大きくはないとしても、皆さんが今後人生で向き合う問題は正解のないものばかりでしょう。そのような未知の問題に果敢に挑戦して、自分の頭で自分なりの解決策を考え出す力、これを私は「たくましい知性」と呼んでいます。

皆さんは早稲田で、「たくましい知性」を育み、「自分の頭で考える」ことを身につけたと思います。「自分の頭で考える」ためには、やはり学問が重要なのです。学問とは、文字が発明されて以来、5千年にわたる人類の経験のエッセンスが体系的にまとめられたものです。もちろん、過去に人類が経験したことのない未知の問題の解決方法は、学問には記されていません。しかし、学問をひもとけば、過去に人類がどのように、未知の問題に挑戦したのかを、学ぶことができます。したがって、皆さんが未知の問題に挑戦する際には、早稲田で修めた学問が座標軸となり、今後の人生の道標（みちしるべ）となっていくはずです。

もう一つ大切なことは、「しなやかな感性」を育むことです。すなわち、異なる国籍・エスニシティ・言語・宗教・文化・信条・性別・性的指向を持つ人々に対して、敬意をもって接することです。そうした利他の精神を身につけることで、「しなやかな感性」は涵養されます。早稲田大学は多くの多様な学生が共に学び、共に生活していますので、皆さんは自分とは異なる背景を持っている人の感じ方や考え方が理解できるようになったと思います。

特にコロナ・パンデミックでは、国や民族の違い、あるいは経済的な格差により、弱い立場の人々がいっそう苦しむことになったと思います。そのことを肌で感じる経験をした皆さんは、より一層「しなやかな感性」を育むことができたと思います。

現在、地球上のいたる所で起きている紛争や戦争、さらには人権侵害、政治的な対立を見て、皆さんはどう感じているのでしょうか。人間同士が何故これほどまでに対立し、いがみ合わなくてはいけないのでしょうか。自分とは異なる人々の立場に立って考えることができれば、人間世界はもっと平和になるだろうと思います。その意味では、皆さんが「しなやか

な感性」を育むことは大切です。

さらに、私が2022年に加えた3番目の理念は「ひびきあう理性」です。この理念は、自分と異なる考えを持つ人の意見にも耳を傾け、対話を通して互いに高めあうことを奨励しています。特に、早稲田という研究大学で学んだ皆さんは、ご自身の知性に自信を持つと同時に、他の人の理性にも敬意を表してもらいたいと願っています。

私は、皆さんには早稲田で学んだ「たくましい知性」「しなやかな感性」「響き合う理性」の大切さを心に刻み、今後の人生に生かしていただきたいと願っています。皆さんが、その考え方を貫いて、社会に出て仕事をしていけば、世界は、人類社会は、もっと平和で、もっと公平で、もっと良くなるだろうと思います。

現在、早稲田大学が目指しているのは、「世界人類に貢献する人材の育成」であり、すなわちグローバルリーダーを生み出す大学になるということです。しかし、早稲田が考えるグローバルリーダーとは、必ずしも国際連合などの国際機関や国際的な企業で働くことばかりではありません。我々が早稲田で考えるグローバルリーダーのイメージとは、世界の何処にいても、どのような小さな村や町にしようと、どんなに小さいNPOや企業や自治体で仕事をしていようと、その卒業生が常に世界人類のためと思って仕事をしていけば、その人はグローバルリーダーなのだということです。これが、我々が考えるグローバルリーダーのイメージです。皆さんも、是非ともその意味で、グローバルリーダーとして活躍してください。

最後に二つお伝えしたいことがあります。皆さんは、早稲田大学を卒業しても、早稲田のことは忘れないでいただきたいのです。早稲田の卒業生であるといことは、必ず皆様の将来プラスになると思います。皆さんには皆さんの母校早稲田大学とずっとつながってほしいと思います。早稲田大学は卒業生を「校友」と呼んでいます。本学では卒業後5年、10年後、15年後の校友をまずホームカミングデーにご招待し、その後は10年ごとにご招待します。ぜひとも皆さんは早稲田との繋がりを忘れないでください。

そのためには、連絡が常につくように、学生時代に使ってきたMy Wasedaのメールアドレスは卒業後もずっと使えますので、そこに来るメールを、ご自身が将来転職しても、世界中どこに住んでも、ずっと使おうと考えているプライベート・アドレスに、自動転送する設定をしてください。そうして、早稲田大学と一生つながってってください。

もう一つお伝えしたいことは、皆さんは卒業して社会に出たら、ご自身がやりたいと思う、遣り甲斐があると感じることに力を入れてください。目先の出世とか、損得を考えて、ご自身が興味ないことをやっても、皆さんの力は80パーセントしか出ません。ご自身が面白い、

遣り甲斐があると感じることなら、皆さんの力は１２０パーセントになります。どの時代でも、どの社会でも、１２０パーセントの力で仕事をする人は、８０パーセントで仕事をしている人よりも成功する確率が高いのです。このことは、私のゼミ生が卒業するときに言ってきた言葉ですが、今は総長としてすべての早稲田の卒業生にお贈りしています。

皆さんは、早稲田で学んだことに自信を持ち、コロナ・パンデミックの中で苦しい学生生活をやりきったことを誇りとして、今後の人生を切り開いてください。

卒業後も、時々は母校に帰ってきてください。その時には、今よりも輝いている早稲田で、今よりも輝いている皆さんとお会いしましょう。

To those graduating students who are still learning Japanese, I want to congratulate you briefly in English.

You should be proud of what you have learned at Waseda, as well as trust in your intelligence and ability. With your education, intelligence and ability, may you contribute to human kind as you make your way through the world.

Congratulations on your graduation!

卒業生諸君、本日は、ご卒業、本当におめでとう！